
むかしのくらし展の趣旨と展示

The purpose of the exhibition and its reflection in the exhibition
With the theme of “The Old Life” exhibition

武井 二葉
TAKEI Futaba

Abstract: This is a preliminary survey of the relationship between the purpose and the exhibition of the “Old Life” Exhibition held at museums all over Japan. This exhibition is tailored to the elementary school curriculum and encourages children to understand familiar history before learning about history. However, the museum is also used by people other than elementary school students. Therefore, I analyzed what kind of exhibition is being held for what purpose. The purpose is to build a theory for the museum to carry out this exhibition by extracting issues. In this paper, I even extracted the issues.

キーワード：学校教育、社会教育、「むかしのくらし」、展示、挨拶文

1. はじめに

全国各地の博物館で行われている展示の一つに、小学校3年生の社会科における「市の様子と人々のくらしのうつりかわり」（旧学習指導要領「くらしのうつりかわり」）に対応した展示（以下、「むかしのくらし展」と略す）がある。特に、民俗資料を収蔵する歴史民俗資料館で実施されることの多い展示である。しかし、全国的に行われているにも関わらず、理論化されることのすくない展示でもある。例えば、CiNiiの論文検索で「昔のくらし」を探すと21件、「むかしのくらし」では8件、「昔の暮らし」で32件、「むかしの道具」では0件、「昔の道具」で14件の結果しか得られなかった。このなかには博物館学だけでなく、教育学や民俗学の論文も含まれている。このうち明らかに博物館に関わるものは、出前授業や団体見学に関するものもふくめて14件である〔註1〕。なお、国立国会図書館の蔵書検索でも、図録や見学案内などはあるが、書籍や論文はみあたらない。「博学連携」というキーワードで検索することで結果は変わってくると思うが、展示の数に対して研究があまりにも少ないのが、「むかしのくらし展」の特徴だといえる。学習指導要領が変更されたとはいえ、引き続き展示している博物館もあり、引き続き利用している学校もあることを鑑みても、理論に基づいた研究の蓄積を行っていくべきだと考えた。

しかしながら、「むかしのくらし展」の行われる時期には出前授業や学校団体の対応に追われ、他館の「むかしのくらし展」を見学すること自体が難しく、研究が進まないという実情もあるかと思う。そこで、本論では「むかしのくらし展」を比較し、議論する土台をつくろうと考えた。そのための予備調査として、まず「むかしのくらし展」の趣旨を明らかにしたいと考える。次に、そのねらいを達成するためにどのような展示を行っているのか検証していくことにする。

そこでまず、これまで開催された「むかしのくらし展」のチラシ、博物館あるいは自治体ホームページに記載された開催概要から、そのねらい（趣旨）を分析する。次に、実際にいくつかの博物館で行われている「むかしのくらし展」を見学し、ねらいが展示において達成できているかどうかを検証していくことにする。そのことにより、「むかしのくらし展」の課題を抽出したい。

なお、この目的は「むかしのくらし展」の傾向を把握することであり、展示批評ではないことを強調しておきたい。筆者もかつては博物館にいた人間として、博物館の規模にかかわらず、それぞれの制約のなかで展示をつくっていることは重々承知している。特に予算規模の小さい博物館においては、予算の問題だけでなく、一人の学芸員が複数の専門分野の展示を担当している現実があり、そのなかで試行錯誤しているのは想像に難くない。また、決裁の過程でチラシや挨拶文の内容が、展示担当者の伝えたいことから変質した可能性もある。しかし、それはあくまで内情であり、来館者には伝わらない。そうした個々の内部事情を抜きにして、あくまで「傾向」をさぐることにしたい。なお、本論では検証のため、博物館名を明らかにしたが、あくまで「傾向」の一つとして捉えていただきたい。

2. 「むかしのくらし」展で伝えたいこと

まず、「むかしのくらし」展のチラシについて、各地の博物館のラックやインターネット上で公開されているチラシを収集した。さらに、ホームページ上での開催案内やプレスリリースにおいて「趣旨」にあたる部分を探し、チラシとあわせて別表のとおりまとめた。ただし、2021年11月より2022年12月の間に断続的に調査を行っているため、ホームページに公開した時期によっては収集から洩れている可能性がある。また、展示の開催時期については、必ずしも2021年度の開催にこだわったわけではないので、過去の年度に開催されたものも含まれている。およそ100館のデータを収集し、「趣旨」について分析を行った。当然、文字数に制約があるチラシと制約がないホームページでは、言及できる内容にひらきが生じるが、今回は予備的な調査として、まずは大きな傾向を把握することに努めたい。

(1) 趣旨が不明のもの

チラシから開催趣旨が読み取れないものが一定数見受けられた。なかには過去年度に開催したものでチラシの表面のみホームページで掲載しており、裏面の情報が得られなかったものがある。そのため実際のチラシには開催趣旨があったものもあるかと思う。しかし、チラシの表裏に開催趣旨がないものもあった。ホームページやインターネット上で公開されているリーフレットから情報を補うことができたものもあるが、何を目的として、どのような内容なのか把握することができなかったものもある。

(2) 趣旨の設定が曖昧なもの

チラシから趣旨の設定が曖昧なものも見受けられた。例えば、「暮らしの変化にふれてみてください」（くにたち郷土文化館）、「時代の移り変わりを感じてみましょう」（東海道かわさき宿交流館）、「覚えてる！あったあったこの道具！という世代には懐かしさと同時に思い出をたどり、見たことあるけど使ったことないよ～、そして、一体これはなあに？という世代は新鮮な驚きをもって「その昔」に触れてみてください」（岡崎市美術博物館）などである。「むかしのくらし」展の挨拶文に限らず、博物館側が目的を設定せずに、博物館は客観的事実を「紹

介する」という立場をとるものもある。

(3) 来館者が展示をみる目的が明確なもの

展示を通じて、来館者に何がもたらされるのか明確なものもある。例えば、「大昔から現代まで、暮らしの中で使われてきた「生活の道具」を振り返ることで、私たちの生活の変化を理解することができます」（豊田市郷土資料館）、「町場と農村部、また家ごとにも、家のつくり・暮らし方など、さまざまな違いがありますが、この地域に生きた人々が実際に使った道具たちから、ご来館の皆様が、現代との違いやその工夫を知るとともに、北区の昔の様子・歴史に興味を持つきっかけ」（新潟市北区郷土博物館）、「年中行事を通して、新潟の1年の暮らしを紹介することで、行事に込められた意味や人びとの祈りを再確認し、地域の文化を見つめ直す機会」（新潟市歴史博物館）などがある。つまり、Aをするのは、Bの目的のためだと説明されている。「生活の道具」をみることは、生活の変化を理解するため、道具をみるのは、現代とのちがいや工夫を知り、昔の様子・歴史に興味をもってもらうため、年中行事を知るのは、地域の文化を見つめ直してもらうためなどと、博物館側のねらいが明確である。

(4) 世代間交流を目的とするもの

趣旨のなかには、世代間の交流ということを目的としたものも多い。例えば、「当展が世代を超えた歴史の語らいの場になることを期待」（新潟市歴史博物館）「それぞれの時期の道具や電化製品を前に、子どもたちに、初めて使った時の驚きや、使い方、どのように暮らしが変わっていったかを話していただけたらと願います」（上越市立歴史博物館）、「ぜひ子どもたちと一緒にご覧ください。また、こうした暮らしを知っているみなさんにはその思い出を若い世代に語り伝え、「今」という時代にできることを一緒に考えていただければと願っています」（松戸市立博物館）、「大人と子どもと一緒に、現代のものとは比べましょう。そして、懐かしい昭和の道具をきっかけにして、子ども時代の思い出を家族に話してみませんか」（大分県立歴史博物館）、「この会場が、当時に懐かしむ同世代同士はもちろんのこと、大人たちと子どもたちとの出会いの場となり、世代を超えた学び合いの場になることを願います」（四日市市立博物館）、「今回の展示を通して、あの頃の風景を懐かしんだり、子や孫へその頃の記憶を繋いでいくきっかけとなれば幸いです」（城陽市歴史民俗資料館）などがある。対象とする年齢層が人の生涯にわたっている生涯学習施設ならではの目的設定であるともいえる。

(5) 昔の知恵や工夫を訴えることを目的としたもの

他に、「温故知新」型の目的がある。つまり、昔にあった知恵や工夫が現在の生活にも役に立つというものである。例えば、「現在の私たちの生活の中で便利で手に入りやすい道具を使い捨てる現実を振り返り見直す機会」（福山市しんいち歴史民俗博物館）、「昔の人たちが暮らしの中で工夫・発明した生活の知恵を学びましょう」（西脇市郷土資料館）、「昔の暮らしを振り返りながら、現在の私たちの暮らしを見つめ直すきっかけになるかもしれません」（青梅市郷土博物館）、「道具を観察することを通して、暮らしの中で受け継がれてきた知恵や工夫を感じとっていくことで、今の私たちの心を豊かにするヒントが得られるかもしれません」（福島県立博物館）、「本展が、当時の暮らしを思い出すきっかけや、昔の人びとが生み出した創意工夫に接する機会」（福井県立若狭歴史博物館）、「昔の道具に込められた人々

の生活の知恵や工夫を探ります」(和歌山市立博物館)、「手間と時間をかけながらも知恵と工夫をめぐらせていたかつてのくらしを振り返ります」(仙台市歴史民俗資料館)、「本展では、つくるということが身近だった昔、衣食住に関わる生活用品がどのようにうみだされ、そこにどんな知恵と工夫がこめられているのか、「つくる」をキーワードに紹介します」(目黒区めぐろ歴史資料館)、「昔の人の工夫や知恵が、皆さんに新しい発見をもたらしてくれるかもしれません」(堺市博物館)、「日々の生活を送る中でさらに良い生活を求めた先人たちの創意と工夫を感じ取ることができるのではないのでしょうか」(取手市埋蔵文化財センター)など、多くの博物館の趣旨に現れる。

(6) 文化財保護への理解促進を目的としたもの

また、ホームページでの開催案内なのでチラシとは意味合いが異なる可能性もあるが、文化財保護への理解を求めるものも1館あった。「市民に文化財保護について広い視野から認識を深めていただけるように」(湖南省東海道石部宿歴史民俗資料館)である。歴史民俗資料館が文化財保護課の所管になっている場合、こういった目的の設定もあり得るであろう。

(7) 多様性、共生社会、社会課題へ応えようとしたもの

明確にSDGsというキーワードを出し、現代の課題に応えようとしている展示もある。「当企画展は、SDGsの「7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに」という目標と大きくかわる、電気に着目しています」(小松市立博物館)である。

また、時代により道具や暮らしの変化だけでなく、価値観も変化していくが、この価値観を問う展示は少ない。例えば、「昔の家族のあり方を振り返り、家族愛とは何かいま一度考えて頂くことが本展のねらい」(芦屋市立美術博物館)というものがある。

(8) 博物館への言及

ここまでは「ねらい」を検討してきたが、それが「博物館」で行われることの意義が読み取れるかどうかをみていくことにする。

まずは博物館の役割を説明したものがあつた。例えば、「人々の記憶を記録に残し、暮らしの変化を次世代に伝えていくのが、資料館の役割だと考えます。資料館では、城陽市内の方々から多くの生活用品・写真資料の寄贈を受けていますが、その際当時の様子も聞かせていただいています。これらは、私たちの暮らしの変化を記録する貴重な財産となります」(城陽市立歴史民俗資料館)

あるいは、「寄贈」「収蔵」という言葉を使い資料の説明を加えているものもある。例えば、「長年にわたり多くの方々から岡崎市へ寄贈していただいた、働き終えた道具たちの年に一度の晴れ舞台です」(岡崎市美術博物館)、「くらしのどうぐがたくさん収蔵されている武蔵野ふるさと歴史館」(武蔵野市立武蔵野ふるさと歴史館)、「今回は当館が所蔵する民俗資料の中から」(福井県立若狭歴史博物館)、「郷土学習展は、昔の道具や暮らしについて調べている子どもたちの学習に役立つよう、博物館の収蔵品の中から衣・食・住を中心とした道具を紹介する展示です」(調布市郷土博物館)、「市民から寄贈された民具を数多く収蔵しています。これらの一部は、宿場の里にある民家や商家、農家、茶店等で展示品として活用しています」(湖南省東海道石部宿歴史民俗資料館)、「今回は、当館で収蔵している昔の道具を展示し、暮らしの変化を“もの”を通して学習する機会を作るため企画しました」(稲敷市立歴史民俗資料館)などがある。

学芸員に対する言及も数は少ないがある。例えば、「平日の午前中は小学生が社会科見学で来館しており、その際には展示室で学芸員が道具類を説明しています」（東村山ふるさと歴史館）、「また、YouTube で配信している動画では、学芸員が昔の道具を使って、その魅力をお伝えします」（池田市立歴史民俗資料館）などである。

また、博物館ならではの教育活動の一つである実物資料に言及したのも見られる。例えば、「昔の人たちが道具を大切に使ってきたことを「実物を見る」「体験する」「話を聞く」ことで、子どもたちに感じてもらいたいと思います」（四日市市立博物館）などである。

3. 「むかしのくらし」展での表現

また、実際に「むかしのくらし」展を行っている博物館に足を運び、展示を見学した。見学を行ったのは、企画展「市制 70 年記念②ちょっと昔の街と暮らし 宇治市ができたころ」(宇治市歴史民俗資料館)、企画展「暮らしの道具いまむかし」(京都府立山城郷土資料館)、令和 3 年度冬季企画展「ちょっと昔の暮らし-昭和レトロ-」(城陽市歴史民俗資料館)、テーマ展示「くらしの道具展」(向日市文化資料館)、特集展示「昔のくらし展 Part.6」(湖南省東海道石部宿歴史民俗資料館)、企画展「ちょっと昔の道具たち」(岐阜市歴史博物館)、「昔のくらしと道具展-羽島高等学校 100 年の歴史-」(羽島市歴史民俗資料館)、企画展くらしのうつりかわり展「海辺の生活」(明石市立文化博物館)の 8 館である。他にも見学した博物館はあるが、直接学芸員等から解説を受けたものは見え方にバイアスがかかる可能性があるため除外した。また、「昔の滋賀のくらし-館蔵品を通して覗き見る、明治・大正・昭和のくらしと懐かしの風景-」(滋賀県立美術館)も興味深い展示ではあるが、美術博物館でなく、美術館としての性格が強いため除外した。

(1) 挨拶文がない展示

挨拶文がない展示も存在した。1 館は子ども向けに「このてんらん会には、150～40 年くらい前までの道具がたくさんあるよ」など書いた吹き出しのパネルがあり〔写真〕、これが挨拶になっている可能性がある。もう 1 館は、チラシを拡大したパネルが入口にあり、これが挨拶の代わりとなっているのかも知れない。また、ボランティアメンバーが展示制作にあたったとあるので、博物館としての挨拶文は適当でない、といった理由があるのかも知れない。挨拶文がない以上、その展示が妥当であるかどうかの判断がつかない。



写真：入口付近の子どもむけ案内（岐阜市歴史博物館）

(2) 目的設定が曖昧な展示

「昭和 20 年代後半から昭和 30 年代の宇治の街と暮らしのうつりかわりを、当時の道具や写真などで紹介します」や「時代とともに変化していく海辺の生活のようすを感じていただけますと幸いです」といった趣旨を掲げるところもみられた。

前者は展示スペースが限られており、真空管ラジオ、トランジスタラジオ、扇風機、洗濯板、たらい、白黒テレビ、豆炭コタツ、電気ストーブ、魔法瓶、エアーポット、電気ポット、電気エアーポットなどの他、航空写真、観光絵はがきや観光地を紹介する雑誌などから構成されていた。展示から何を感じるのか、学ぶのかは来館者に委ねられているように受け取れた。

後者は、展示スペースもひろく小学校 3 年生の授業で扱う資料を展示した場所と企画展「海辺の生活」を紹介する場所が分けられ、資料も豊富に展示されていた。そのため来館者には、「時代とともに変化していく海辺の生活の様子を感じる」だけでなく、さらに感じた後、さらに何を考えてもらいたいのか、何を学んでほしいのか言及することも可能であった。挨拶文にも「漁に出る漁師だけでなく、それを支える家族の役割も重要でした」とあり、家族の役割について考えたりすることも可能である。「おわりに」では、漁師や漁業協同組合の人から話を聞いたことで「時代がうつるにつれて漁業や海の様子がかわってきたこと」や、「豊かな海を取り戻す取り組み」があることを知ったとあり、こうした環境問題について考えるきっかけとしてもらうことも可能である。

(3) 来館者が展示をみる目的が明確なもの

趣旨が明確なものとして、例えば「衣・食・住などの日常生活にかかわる道具の移り変わりをすることでそれらが使われていた時代の暮らしの知恵を発見したり、暮らしの歴史を考えたりする機会」にしたいというものがある。展示は、1、電気・ガスの無かった時代、2、電気・ガスのやってきた時代、3、電子レンジの時代、4、パソコン・ケイタイの時代という時代区分で、それぞれの時代の暮らしの様子や道具が紹介されている。何年前とか、明治・大正といった時代区分でなく、モノを時代のものさしにすることで、道具の移り変わりがよくわかるようになっている。また、解説パネルが用意され、展示担当者の時代観に沿いながら「暮らしの歴史を考える」ことはできたように思う。例えば、「ラジオがある家は、それを聞くのが夜の楽しみでした」「テレビがあたらしく家にやってきて夜は家族みんなでチャブダイをかこんでそれを見るのが楽しみでした」「どこの家でも電話が置かれるようになり、いつでも遠くの人とお話ができるようになりました」「今から 20 年ほど前、家でもパソコンが使われるようになり、お手紙を書いたりするのが早くなりました」など、どのパネルでも家族や人とのコミュニケーションに力点が置かれた説明となっていた。

(4) 世代間交流を目的とした展示

今回、世代間交流をねらった展示を見学することは叶わなかったが、世代間交流を図ったと思われる取り組みはいくつかみられた。例えば、中学生の Student museum curator により制作されたパネルの設置がある。「市の様子と人々のくらしのうつりかわり」の単元は小学校 3 年生での取り扱いになるが、中学生にキャプションをかいてもらうことで、世代間の交流につながるかもしれない。

また、ボランティアが展示の企画、制作、解説などにかかわっている博物館もあり、写真や映像、実際に見えた範囲でしかないが高齢者層との交流になっているともいえる。

また、高等学校の歴史をとりあげた羽島市歴史民俗資料館の展示では「高校時代の思い出」

として、卒業生のお話をパネルにしたものがあった〔註2〕。小学生と一緒に来館者した保護者にとっては懐かしい写真もあり、そこから交流が生まれる可能性もあるかもしれない。

(5) 昔の知恵や工夫を訴えることを目的とした展示

趣旨に「それらが使われていた時代の暮らしの知恵を発見」、「昔の人の知恵などを発見する場」と謳われた展示も2つほどあった。「知恵」については、「水こし そこに砂利、木炭をつめ布などをはって中の水をこす器」というようにキャプションなどでも触れられていることが多い。逆に、「行燈 家の中の隙間風で消えたり、火事の危険があった」とか、「炭火アイロン 現在と比べると重い、温度調整不可」などと過去の道具のデメリットについて触れられたものもあった。

(6) 文化財保護の理解促進のための展示

湖南省東海道石部宿歴史民俗資料館の挨拶文は、ホームページ上と同じく、文化財保護への認識をひろめるという趣旨が示されていた。展示スペースが壁面ケース一面のみで、資料も20点ほどしかない。しかし、とっくりのキャプションに、八田焼という近隣の甲賀市でつくられたもので、通い徳利が壊れたのちも置物として生産が続いたことが述べられている。市民から寄贈された民具を収蔵するだけでなく、地域の歴史や民俗について調べて還元している姿勢をみることができる。

(7) 多様性、共生社会、社会課題を考えた展示

今回は、現代的な課題に対応した展示は見受けられなかったが、古いジェンダー観が表れた展示が多いことがわかった。例えば、遊びは男女の差が表現されることが多い。例えば、めんこの説明パネルでは男児の姿が描かれ、洗濯は女性の写真が使用されることが多い。おもちゃや家電のパッケージに付されたイラストや写真も当時のジェンダー観がよく表れている。

(8) 博物館への言及

城陽市歴史民俗資料館では、「記憶を記録に残し、暮らしの変化を次世代に伝えていくのが、資料館の役割だと考えます。資料館では、城陽市内外の方々から多くの生活用品・写真資料の寄贈を受けています」という挨拶文ではじまる。確かに、展示のなかでも、「昭和23年(1948年)生まれの方が、子供の頃にコレクションで集めたお菓子のパッケージです」とあり、個人の寄贈品が展示されていることがわかる。また写真が多用されていることから単に写真の寄贈を受けているだけでなく、年代や場所といったバックデータがしっかりしていることがわかる。

4. おわりに

ここまで、「むかしのくらし展」のねらいと、そのねらいを達成するために行われている展示を行っているのか検証してきた。課題を整理すると、(1) 開催趣旨が不明のものについて、博物館は小学校3年生のためだけのものではないし、誰がどのような目的で、何をしているのか説明する責任は、博物館を利用しない人のためにもある。

(2) 開催趣旨があいまいなものについては、懐かしいと思う来館者の経験と博物館の資料

をつないだその先に、博物館は何を提供できるのかが重要だと考える。単に懐かしい体験であれば、古道具屋やアンティークフェアや過去を振り返るテレビ番組で充分だからである。博物館でよく採用される教育観に、構成主義がある。来館者自身の興味と関心にしたがって、モノをみたり、考えたりして学習するというものである。その影響もあり、「感じてください」といった曖昧な設定をしているのかとも考えられるが、構成主義を採用するならばそのための仕掛けは必要で、ただ来館者を放置するのと、来館者が自由に見るのは意味が異なる。

(5) 昔の知恵や工夫を伝える趣旨のものについては、数が多かった。「昔の知恵や工夫」といった価値観を否定するつもりはないが、博物館が交流の場であろうとするならば、さまざまな価値観を提示できていいように思う。「本当に昔の知恵や工夫は役に立つの？災害時に確かめてみた」など、来館者の既知の概念にゆさぶりをかけることも必要ではないか。

また「知恵の発見」については「知恵」をキャプションで伝えるだけでなく、来館者自身が「発見」できるような展示が必要かも知れない。例えば、洗濯板は「汚れが落ちやすいように刻み目がついています」、「石けんを置くための、くぼみがつけられています」というように「知恵」が紹介されていたが、説明を読んでしまうと「発見」にはならない場合もある。自分で考えて、さわったり、写真やその他の資料から考えたりするからこそ「発見」の喜びは得られることもある。

(7) の現代的な課題にどのように応えていくのかという視点は少なかった。一方で、過去のジェンダー観が展示のなかに含まれていることがあることがわかった。過去にあった性差による不平等を、展示により再生産しないように留意していく必要がある。

(8) の博物館への言及は、収蔵資料の活用という文脈で多かった。単に「むかしのくらし」の移り変わりを紹介したり、昔の道具の工夫を伝えるだけなら、それは博物館でなくてもできることなのではないか。学校に民俗資料がある場合もある。昔の暮らしならば学芸員より地域の高齢者の方が詳しいこともある。なぜ、それを博物館がするのかを考えたい。来歴がない資料ではないこと、どこで、何年ぐらいまで使用されていたのかがわかっていること、他の地域の資料との比較検討などが成されていること、「学び」や「交流」、「考えを深める」など一定の目的が達成されるように展示が構成されていること、そういった博物館活動があつて博物館での「むかしのくらし」展が行われている。しかし、こうした博物館活動は一般には知られていない。来館者に図鑑や動画とはちがう博物館ならではの体験を伝えていくためには、こうした博物館活動への言及も必要である。また、端信行がいうように「できるだけ設置者や第三者のクレームを避けようと、学術性や芸術性に依拠したメッセージを好む」傾向にあるということもある。「しかしこの傾向が強まると、博物館は学術や芸術の拠点と化して、一般社会から遊離した場になりかねない」ということも指摘しておきたい（註3）。

註

- (1) 2022年2月時点での検索結果による。なお、福田珠己「博物館で語られた「地域の昔」：一宮市博物館の事例から」『人間科学論集』2000, 30) や、青木俊也「生活再現展示の思考」『人類文化研究のための非文字資料の体系化：年報』2007, 4) など、「むかしのくらし」等のキーワードでは検索にかからない論文がある。
- (2) 羽島市歴史民俗資料館の「昔のくらしと道具展～羽島高等学校100周年の歴史～」は、挨拶文から「昔のくらしと道具展」と「羽島高等学校100周年の歴史」の関係は、タイトルとサブタイトルの関係ではなく、併催のように判断できる。
- (3) 端信行、2010、「博物館における展示の役割」『展示論-博物館の展示をつくる-』p9

	博物館名	開催年	展示タイトル	ご挨拶文	媒体
1	三重県立博物館	2018	企画展 「くらしの道具～いま・むかし～」	明治時代がはじまって150年、この間に私たちの生活は大きく変化し、豊かで便利なものになりました。一方で、なくなってしまうのではないかと危惧を抱くものもあります。それはモノを大切に作る心や過去から受け継がれてきた技術や伝統です。 今回の企画展では、明治時代から平成にかけての様々な生活用具を紹介します。新しい道具の出現や変化が人々の暮らしにどのような変化をもたらしたのか、また、これからはどうあるべきかを考えるきっかけづくりの場となれば幸いです。 また、今回の特集は、「三重の伝統産業」です。三重が誇る伝統産業の数々をその作品を通じて紹介します。過去から息づくモノづくりの技術と伝統、そしてその美しさをご堪能ください。	チラシ
	三重県立博物館	2020	トピック展 「昔の道具を考える」	電気の普及により「電化」された生活道具の数々。その新しい道具の出現が私たちの暮らしにどのような変化をもたらしたのかを、実際に道具を使ってきた方々の感想を交えて紹介します。	チラシ
	三重県立博物館	2022	トピック展 昔の道具を考える	「電化」により人力や火が担っていた役割を大きく変化させた道具や人の生活の変化によって形を変えた道具、技術の進歩により形を大きく変化させた道具などの移り変わりがわかるように展示します。展示点数は、明治時代から昭和・平成時代にかけての約90点です。例えば食事に使う道具では、かまどや羽釜から電気炊飯器への変化を、人の生活の変化によって形を変えた道具では、箒（ほうき）から掃除機、長持ちから筆筒（たんす）そして洋服筆筒へ、また形を変えた道具では計算機の変遷を紹介します。	ホームページ https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/MieMu/p0031300049.htm
2	尼崎市立歴史博物館	2021	尼崎市立歴史博物館第一回企画展 「むかしのくらし むかしの小学校」	電化製品が普及しはじめたころの少しむかしのくらしの道具と戦前の尼崎の小学校の様子を紹介する展覧会です。会期中、昭和八年の小学校の様子を撮影した貴重な映像と、平成二九年に尼崎市内で撮影した「おくどさん」を使った炊飯の記録映像を常時上映します。	チラシ
3	くにたち郷土文化館	2021	民具案内関連企画展 「むかしのくらし展」	みなさんは、電気がなかった時代が想像できますか？ 夜暗くなったら、どうしていたのでしょうか？ 洗濯は？とっても寒いときは？ はたらくのも大変そうです。 では、電化製品がようやく買えるようになったとき、家にはどのようなものがあつたのでしょうか。 展示されている暮らしの中で使われてきた道具（民具）を通して、暮らしの変化にふれてみてください。	チラシ
4	堺市博物館	2016	企画展 「むかしのくらしー不思議な道具の数々ー」	今の私たちの身の回りには、便利な道具がたくさんあります。しかし、これらの道具は昔からこんなに便利だったわけではありません。人々が暮らしやすくなるように、様々な進歩をとげてきたものです。想像もできないくらい、はるか昔の道具の話ばかりではありません。「ちょっとだけ昔」の暮らし、博物館でのぞいてみませんか。懐かしい！と思う方も、新鮮！と思う方も、昔の人の工夫や知恵が、皆さんに新しい発見をもたらしてくれるかもしれません。	チラシ
	堺市博物館	2022	企画展「昔のくらし～みんなの知らない昔の堺～」	かつて広がっていた風景や日常生活で使う道具などは、知らず知らずのうちに変化しているものです。その中には、すでに忘れられてしまっているようなものも少なくありません。 この企画展では、江戸時代から現代までの堺の風景やくらしの移り変わりにスポットを当ててご紹介します。特に「スポーツ」・「風景」・「くらし」という3つのテーマにわけて、かつての堺の名所やできごと、人びとのくらしぶりとその変化をたどります。	チラシ
5	東海道かわさき宿交流館	2020	昔のくらしと道具展	現在ではほとんど使われることがなくなった、昔懐かしい道具を紹介します。当時の生活道具を通して、時代の移り変わりを感じてみましょう。	チラシ（表面のみ） ※共催：川崎市市民ミュージアム

6	城陽市歴史民俗資料館	2019	平成30年度冬季企画展 「ちょっと昔の暮らしと風景－昭和の子どもたち－」	私たちの生活は日々変化しています。特に、昭和30年代に電化製品が登場・普及すると、今まで手作業であった作業は、格段に機能的になり私たちの暮らしは一変しました。しかし、私たちは日常の変化というのはあまり気付かず過ごしています。一人一人の記憶は断片的に残っていても、記録としては残りにくいのが現状です。人々の記憶を記録に残し、暮らしの変化を次世代に伝えていくのが、資料館の役割だと考えます。 資料館では、城陽市内外の方々から多くの生活用品・写真資料の寄贈を受けていますが、その際当時の様子も聞かせていただいています。これらは、私たちの暮らしの変化を記録する貴重な財産となります。 毎年この時期に、小学校3年生の社会科「昔の道具と人びとの暮らし」と風景－昭和の子どもたち－の学習の一環として、市内外から多くの学校が資料館を訪れます。「ちょっと昔の暮らしと風景」展ではそれに対応した体験学習・見学ができる展示となっております。さらにこの度の展示では、昭和の子どもたちの日々の暮らしや学校生活の様子などを写真で紹介いたします。今と昔の道具や同じ年ごろの学校生活の違い、暮らしぶりの移り変わり、昔の人の知恵などを発見する場として活用していただきたいと思います。 今回の展示を通して、あの頃の風景を懐かしんだり、子や孫へその頃の記憶を繋いでいくきっかけとなれば幸いです。	チラシ（趣旨なし） ホームページ https://www.city.joyo.kyoto.jp/0000003491.html
	城陽市歴史民俗資料館	2022	令和3年度冬季企画展	昭和30年代は、生活を豊かにしようとか電製品が登場し、日本人の生活スタイルが大きく変わった時代です。昭和から平成にかけて、生活道具や家電製品の変遷をたどります。 また「昭和レトロ」として近年SNSなどで注目を浴びている、新鮮でおしゃれな昭和時代のデザインにも着目し紹介します。	チラシ（趣旨なし） ホームページ https://www.city.joyo.kyoto.jp/0000003492.html
7	岡崎市美術博物館	2019	平成30年度収蔵品展 「暮らしのうつりかわり」	今回で7回目を迎える「暮らしのうつりかわり展」は長年にわたり多くの方々から岡崎市へ寄贈していただいた、働き終えた道具たちの年に一度の晴れ舞台です。明治から昭和にかけて生活・生産道具を中心に紹介しながら、私たちの暮らしがどのように変わってきたのかを振り返ります。 明治から現代までの150年間、日常生活を支えた道具の多くは、各時代を生きる人びとの暮らしにあわせて、様々な工夫と改良がなされてきました。覚えてる！あったあったこの道具！という世代には懐かしさと同時に思い出をたどり、見たことあるけど使ったことないよ～、そして、一体これはななに？という世代は新鮮な驚きをもって「その昔」に触れてみてください。	チラシ
8	群馬県立歴史博物館	2021	群馬県立歴史博物館第20回テーマ展示 「昭和の暮らし」	令和の便利な世の中になり、昭和は遙か昔のこのように感じていませんか？その昭和のくらしで使われていた生活道具を展示しています。あわせて当時の生活の場も一部再現しています。人々の生活がどのように変化してきたのかを見ることで、懐かしかったり驚きがあったりするかもしれません。そんな昭和のくらしを感じに来ませんか。	チラシ（趣旨なし） ホームページ https://grekisi.pref.gunma.jp/event/1123/
	群馬県立歴史博物館	2019	第13回テーマ展示 「くらしのうつりかわり2」	主に昭和の時代に生活の中で使われた道具を展示します。「くらしのうつりかわり1」から一部展示替えを行い、あんかや火鉢などの冬のくらしの道具、石油ランプなどのあかりの道具を紹介します。また、昭和50年代のこたつの部屋を再現し、実際に触れていただくことで、生活の中でどのように道具が使われていたかを体験できます。人々のくらしがどのように変わってきたのか、少しの間、時計の針を巻き戻して当時のくらしをのぞいてみてください。	ホームページ
	群馬県立歴史博物館	2020	第16回テーマ展示 「昭和のくらしをのぞいてみよう」	昭和時代に生活の中で使われた当館所蔵の道具を展示します。炊事や洗濯などの日常生活の中で使われた道具を紹介し、あわせて、蚊帳を吊った部屋や茶の間など当時の生活の場を一部再現します。時代とともに人々のくらしはどのように変わってきたのでしょうか。少しの間、時計の針を巻き戻して当時のくらしをのぞいてみませんか。	ホームページ
	群馬県立歴史博物館	2019	第12回テーマ展示 「くらしのうつりかわり1」	主に昭和の時代に生活の中で使われた、炊事や洗濯などの日常の道具をはじめ、白黒テレビや真空管ラジオなどを展示します。また、蚊帳を吊った部屋や昭和50年代の茶の間を再現したり、実際に触って体験できる道具を用意したりすることで、生活の中でどのように道具が使われていたかを子供たちにもわかるようにしています。人々のくらしがどのように変わってきたのか、少しの間、時計の針を巻き戻して当時のくらしをのぞいてみてください。	ホームページ

9	取手市埋蔵文化財センター	2012	取手市埋蔵文化財センター第32回企画展「昔の暮らし・古い道具」	<p>今回の企画展では、旧取手市・旧藤代町時代から収集してきた民具や農具などの古い道具から、私たちの生活がどのように変わってきたかを紹介します。今は使われなくなった道具、形がかわってしまった道具、形は同じでも材質の違うものなど、さまざまな道具の移り変わりから、私たちの生活の変化を見ていきます。</p> <p>また機械化される以前の米づくりの様子を、古い写真や現物の農具で紹介します。かつて、「米」と言う字は分解すると「八十八」になる、米は農家の人が「八十八」もの苦勞をして作ったものだから、一粒でも粗末にしてはいけない、と言われてきました。このことばも、最近は聞かれなくなりましたが、かつての米づくりはそれこそ「八十八」ではきかないくらい苦勞の連続でした。これは、機械化された現在の米づくりでも同じと言えます。</p> <p>これらの道具の移り変わりからは、日々の生活を送る中でさらに良い生活を求めた先人たちの創意と工夫を感じ取ることができるのではないのでしょうか。</p> <p>最後になりましたが、今回の企画展の開催にあたりご協力をいただきました関係各位にたいしまして、深甚なる謝意を表して開催のあいさつとさせていただきます。</p>	パンフレット
10	奈良県立民俗博物館	2019	シリーズ展 科学×サイエンス 「昔の暮らしのサイエンス」	<p>明治時代科学教育の始まり 明治の理科の教科書から当時の暮らしをみる</p>	<p>チラシ（表面のみ） ホームページ https://www.pref.nara.jp/item/215049.htm 「日本の科学教育は明治5年の太政官公布の学制から始まりです。当時の理科の教科書をみてみると、暮らしの中の現象・道具を例にして、物理法則の解説をしています。明治時代の教科書を通して科学教育の始まりや、教科書に書かれている道具や当時の暮らしを紹介します」</p>
	奈良県立民俗博物館	2018	昔の暮らし関連展「子どものくらしーあそびとまなびー」	<p>約60年前の勉強道具、おもちゃ、雑誌、昔話や教科書に登場する”あの道具”が常設展「昔の暮らし」に仲間入り！ちょっと昔の子どもたちのくらしをのぞいてみよう！</p>	チラシ（表面のみ）
11	吹田市立博物館	2021	特別企画「むかしのくらしと学校」		<p>チラシ（趣旨なし） ※2020,2019,2018,2016,2015年も同様。2017年「むかしの衣食住の生活用具や学校の学習用品のうつりかわりを展示しています。また、げたやわらぞうりをはいたり、火打ち石・はたおりもできるよ」</p>
12	岐阜市歴史博物館	2020	企画展「ちょっと昔の道具たち」	<p>くらべてみよう！今とむかしのくらし 150～40年くらい前に使われていた、いろいろな道具をたくさんあつめました。みなさんがふだん生活をしている「まちかど」や「家の中」の昔のようすを再現したコーナーや、「道具のうつりかわり」コーナーもあります。今つかっている道具は、昔はどんなかたちで、何でつくられていたのでしょうか？どうやってつかったのでしょうか？みなさんも、いっしょに昔のくらしをたずねてみませんか？</p>	チラシ

	岐阜市歴史博物館	2019	企画展 「ちょっと昔の道具たち」	くらべてみよう！今とむかしの暮らし 150～40年くらい前に使われていた、いろいろな道具をたくさんあつめました。みなさんがふだん生活をしている「まちかど」や「家のなか」の昔のようすを再現したコーナーや、「道具のうつりかわり」コーナーもあります。また、このてらん会は見るだけではなくありません。ならんでいる道具の多くは、さわったり今つかっている道具は、さわったり、ふれて、動かして楽しめるこのてらん会。みなさんも、いっしょに昔のくらしをたずねてみませんか？	チラシ
13	小城市立歴史資料館	2019	～むかしの道具にみる～くらしのうつりかわり展	なににつかったどうぐでしょう？こたえはてんじしつでさがしてみよう！	チラシ
14	武蔵野市立武蔵野ふるさと歴史館	2019	平成30年度第4回企画展学校教育連携展示 古老が語る、武蔵野のくらし	くらしの道具がたくさん収蔵されている武蔵野ふるさと歴史館。しかし、どうぐだけを見てどのように使っていたのか、どのようにくらししていたのかはつきりとわかりません。しかし、それを知るための手がかりは幾つもあります。それは本のなかにあるかもしれません。何十年も前に撮影した写真の中に隠れているかもしれません。そして、それは、身近な人の「語り」の中にあるかもしれません。今回の企画展では、明治・大正期にうまれた人たちの「語り」からどうぐのうつりかわりやくらしのうつりかわりをみていきます。	チラシ
	武蔵野市立武蔵野ふるさと歴史館	2022	令和3年度第4回企画展学校教育連携展示 火のある暮らしのうつりかわり	現在、わたしたちの生活は電気やガスの普及によって大変便利になっています。日常の中で、直接火を見る機会は少なくなりました。しかし、昔の生活は、いろりの火、かまどの火、ランプの火など、火のある生活が当たり前だったのです。本展では、衣・食・住と日常生活の火に着目し、当館の収蔵資料を中心に、火を使う昔の道具を紹介します。現在では使われなくなったものもあれば、技術の発達により形を変えながら使われ続けているものもあります。本展がみなさまにとって暮らしのうつりかわりについて考える機会となれば幸いです。	チラシ
15	肥前国庁跡資料館	不明	肥前国庁の昔の道具展	肥前国庁跡資料館では、佐賀市内で実際に使われていた、昔なつかしい道具を展示しています。「道具のうつりかわり」を、じっさいに見て、昔はどんなくらしをしていたのか、佐賀のくらしをそうぞうしてみよう。	チラシ
16	六ヶ所村立郷土館	2021	企画展 「くらしのうつりかわりと道具」	さわってみよう！石うす、足踏み脱穀機、ハネゴでイカ釣りゲームなど昔の道具を体験できます。 村のうつりかわりの歴史 泊湊や開拓、開発の歴史のほか、伝統芸能を写真やパネルで紹介いたします。 六ヶ所村の写真や昔のお金や戦争の資料も展示しています！ 江戸から昭和までの銭や硬貨、紙幣。軍刀やヘルメット、債券や千人針など。	チラシ（表面のみ）
17	豊田市郷土資料館	2019	豊田市立郷土資料館企画展～くらしのうつりかわり～ 「食べもの」と道具」	大昔から現代まで、くらしの中で使われてきた「生活の道具」を振り返ることで、私たちの生活の変化を理解することができます。 この企画展では、私たちがくらししていく上では欠かすことのできない”食べもの”に関する道具を紹介しています。どのような方法で食べ物が加工・調理されているのか、さまざまな道具を取り上げて食生活のうつりかわりを考えます。	チラシ
18	明石市立文化博物館	2021	企画展くらしのうつりかわり展 「米づくりの春夏秋冬」	私たちは、春夏秋冬と季節に合わせた生活を、毎年くり返しながら過ごしています。米づくりも、春夏秋冬、イネの成長に合わせて行われます。イネの成長に合わせた季節ごとの作業と、作業の間に行われる祈りの行事。たくさんの良質な米を収穫するための努力や改良の一端を、明治時代から昭和30年代の道具を通して紹介します。 あわせて昭和時代の生活道具を展示します。まだ水道・電気・ガスがなかった時代から、高度経済成長期を経て変わっていく生活道具たち。米づくりの変化と合わせて、生活がどのように変化していったのか、昭和時代を中心とした急激な時代の変化を感じていただければ幸いです。	チラシ

	明石市立文化博物館	2020	明石市制施行100周年記念企画展「くらしのうつりかわり展」 「子どもの頃の記憶」	今回の「くらしのうつりかわり展」は、「子どもの頃の記憶」と題して、昭和時代を中心に、子どもの目線から昔の暮らしを振り返ろうとするものです。2019年は、「平成」から「令和」と時代がうつりかわり、明石市も市制100周年を迎えるなど、節目の年でもありました。このような節目の年だからこそ、遠い過去となりつつある「昭和」時代を中心とした昔の生活や道具に目を向けてみてはいかがでしょうか。 本展では、子どもたちの生活や遊びがどのようにうつりかわったのかを、当時の子ども達が「見て」、「使って」、「あこがれた」道具を通して振り返ります。過去の懐かしさを振り返るとともに、こんな道具もあったのかという目新しさも見つけていただければ幸いです。	チラシ
19	新潟市北区郷土博物館	2020	常設展拡大企画 昭和のくらし展－「住まいの道具イロイロ」	ごあいさつ 当館は、常設展示テーマを「阿賀北の大地と人々のくらし」として、この地域の歩みや文化を紹介しています。展示室には、考古・歴史・民族・芸術の各分野の資料を展示していますが、「新潟市北区」を語り尽くせるものではありません。そのため、展示室で紹介しきれない収蔵資料を、テーマを設け、常設展拡大企画としてご紹介しています。 平成28(2018)年度から開催している本展では、収蔵資料の中から60～70年前ころまで使われていた昔の道具を展示し、その暮らしをご紹介しています。昨年度までに「食べる」「着る」をテーマに展示しましたので、本年度は「住まい」に関わる道具を展示します。 町場と農村部、また家ごとにも、家のつくり・暮らし方など、さまざまな違いがありますが、この地域に生きた人々が実際に使った道具たちから、ご来館の皆様が、現代との違いやその工夫を知るとともに、北区の昔の様子・歴史に興味を持つきっかけとなれば幸いです。奥の常設展示室にもさまざまな資料を展示していますので、併せてご覧ください。	パンフレット
20	広島県立歴史民俗資料館	2021	令和3年度風土記の丘ギャラリー 「暮らしと道具のうつりかわり～夕暮れ時のわが家～」	現代では夕暮れ時に家族が揃うことは少なくなりましたが、数十年前は、夕暮れ時は、家族が集まり、食事をともにし、くつろぐ時間でした。夕暮れ時に使われたいろいろな道具の移り変わりを紹介します。	チラシ
21	千葉県立関宿城博物館	2021	「昔のくらし展」	令和の前の平成、その前の昭和と、時代はあっという間に過ぎていきます。そして私たちのくらしも徐々に変わっていきます。 私たちのくらしが、大きく変わった時期は、今から140～150年ほど前(明治時代)と50～60年ほど前(昭和40年前後)です。明治時代は、西欧諸国から色々な道具や服装、食べものなどが入ってきます。そして、昭和40年前後は高度経済成長期といわれ、核家族が増え、私たちの身の回りの道具が電気によって動くものになっていきます。 ここでは、その昭和40年前後のくらしの変化を紹介します。	パンフレット
22	福井県立若狭歴史博物館	2020	テーマ展「ちょっとむかしにくらし展～洗濯へん」	「ちょっとむかしのくらし展」今回のテーマは「洗濯」です。ほかの家事と同様に、洗濯の様子も時代を通じて変化してきました。衣服の素材や洗濯の用具が変わることによって、様子も変わってきました。今回はちょっとむかしから現在までの洗濯の様子のありようを、実際に使われていた洗濯の道具を用いて紹介します。	ホームページ https://wakahaku.pref.fukui.lg.jp/exhibition/detail/post-517.php
	福井県立若狭歴史博物館	2017	企画展「むかしの道具しごと～」	電化製品にかこまれた現代では考えにくいことですが、今から約100年前まで、一般家庭では電気に頼らない生活をしていました。また、身の回りのものは簡単に捨てたり、買い替えたりせず、修理したり、転用したりして、大切に使いながら生活する時代が長くありました。そこで、今回は当館が所蔵する民俗資料の中から、明治から昭和半ばごろまで、実際に使われていた日用品や、かつて若狭で盛んだった産業に関する道具類や仕事着、当時の人びとの暮らしぶりがわかる古写真を中心に展示し、すこし昔の人びとの「くらし」と「しごと」の様子を紹介します。本展が、当時の暮らしを思い出すきっかけや、昔の人びとが生み出した創意工夫に接する機会となれば幸いです。	ホームページ https://wakahaku.pref.fukui.lg.jp/exhibition/detail/post-409.php

	江東区中川船番所資料館	2019	企画展「昭和の暮らしと遊び」サワレル、アソベル、タメニナル!	資料館が昭和の時代にタイムスリップ! 黒電話やレコードプレーヤーのほか、生活用品やおもちゃを展示します。 実際に触ったり、遊んだりして、昔の暮らしを体験しませんか? 夏休みの宿題にぴったりのワークシートももらえます。	ホームページ https://www.kcf.or.jp/nakagawa/kikaku/detail/?id=43
29	名古屋市博物館	2021	企画展「なごやのうつりかわりーうみ・やま・まちのくらしー」	名古屋市の小学校3年生は、名古屋市やそこにくらす人々の生活のうつりかわりについて学習します。その学習内容に合わせて、今回の企画展では、明治時代から現在までの名古屋市のうつりかわりを紹介します。 会場では「交通のうつりかわり」「なごやの広がり」「なごやの中のいろいろなくらし」「道具やくらしのうつりかわり」というテーマで展示しています。 新旧の名古屋駅、テレビ塔建設、市電と地下鉄、家電の登場などのテーマから、名古屋市と人々の生活がうつりかわる様子をたどることができる展覧会です。	ホームページ http://www.museum.city.nagoya.jp/exhibition/special/past/tenji20201110.html
30	柏崎市立博物館	2020	令和2(2020)年度冬季収蔵資料展「むかしのくらしと道具ー子ども時代を支えたモノたち」	むかしの子どもは多忙でした。学校へ通いながら、家では仕事の手伝いや子守りをし、その合間に仲間と野山を走り回って遊びに熱中しました。 本展では、春夏秋冬を通して子どもたちのくらしを支えた道具を展示し、自然の中で生きる力を育んだ少しむかしの子どもの様子をご紹介します。	ホームページ https://www.city.kashiwazaki.lg.jp/k_museum/16/6/23222.html
31	戸田市立郷土博物館	2014	第14回昔のくらし展:はっけん昔のくらし	おうちにある道具だったらどれと同じように使うのだろう?身の回りにある道具とくらべてみよう!見たことないものがいっぱいだね。どうやって使うのかな?おうちの人と一緒に考えてみよう。	ホームページ https://www.city.toda.saitama.jp/soshiki/377/hakubutsu-tenzi-h25.html
	戸田市立郷土博物館	2022	「はっけん昔のくらし」	「はっけん 昔のくらし」は、小学校3年生の学習「人々のくらしのうつりかわり」に合わせて行われる展示です。 電気やガス、水道は、今の生活には欠かせないものですが、それらがなかった時代にも、当時の人々は自然の力をたくみに利用して、工夫をこらして生活していました。 今回の展示では、昭和初期の電気製品や少し昔の居間等の再現や当時の写真を通して、人々のくらしと戸田の町並みの移り変わりを紹介します。 今とは違う新しい発見にたくさん出会えるかもしれません。	チラシ
32	すみだ郷土文化資料館	2000	企画展「道具から見た昔のくらし展」	「おひつ」「ちゃぶ台」「行灯」「蚊帳」などは、少し前まで当たり前のように人々の生活の中にありました。しかし、生活様式の変化や、技術の進歩に伴って、その姿を変えてしまい、今の子供たちには馴染みの薄いものとなってしまっています。そこでこの企画展では、これらの道具やその変遷を通して、昔の生活の様子を子供たちにも分かりやすく紹介しました。	ホームページ https://www.city.sumida.lg.jp/sisetu_info/siryou/kyoudobunka/tenzi/h12/mukasinokurasi.html
33	旧河澄家	2017?	旧河澄家企画展示「昔の暮らし展」	旧河澄家の蔵をこの夏初公開します。 江戸時代から受け継がれる昔の人々の暮らしを蔵の中でのぞいてみませんか?	チラシ(表面のみ)
34	薩摩川内市川内歴史資料館	2021	企画展「道具から見る昔の暮らし」	人々が暮らしの中で工夫して生み出してきた民具や家庭用として量産されてきた道具から、昔の暮らしを紹介します。	ホームページ http://rekishi.satsumasendai.jp/?post_type=news
35	太宰府市文化ふれあい館	2003	第7回くらしのうつりかわり展	くらしのうつりかわり展は、小学校の社会科の学習支援を目的に開催しています。三世代で楽しめる内容となっており、昔のくらしや道具を見学したあと、きものを着たりむかし遊びの体験もできます。今年のおすすめは「お手伝い名人になろう」コーナーです。	ホームページ https://dazaifu-bunka.or.jp/exhibition/detail/379.html
	太宰府市文化ふれあい館	2022	第26回くらしのうつりかわり展	太宰府市文化ふれあい館では、昔の生活道具などをたくさん展示しています。わたしたちのまちやくらしが、どのようにかわってきたのか、ちょっとのぞいてみましょう。	ホームページ https://dazaifu-bunka.or.jp/exhibition.html
36	大口町歴史民俗資料館	2021	秋の企画展「ちょっと昔のくらしの道具図鑑」	資料館所蔵の「ちょっと昔の」道具を展示しています。見たことがある道具もあるかと思いますが、どのような場面でどのように使われたのか、どんな工夫がこめられているのか、そのつくりかたは?語源となった慣用語など、1点1点を様々な視点からご紹介しています。道具たちにじっくりと接することにより、なつかしきや新たな発見、おどろきに出会っていただければ幸いです	ホームページ https://www.town.oguchi.lg.jp/2682.htm

37	府中市郷土の森博物館	2019	企画展 「ちょっとむかしのくらし その4」	<p>明治時代（今から約110～140年くらい前）から、日本にはさまざまな外国の文化が流入し、それまで根付いていたくらしも大きく変化していきました。そして新たな道具類が次々と登場し、人びとのくらしがより便利になるような工夫がなされてきました。なかでも、日々のくらしに使う道具は、時代とともに変化、進化し続けています。「ちょっとむかし」と考えがちな数十年前のものでさえ、その多くは失われ、それをいま見ると、なつかしい、もしくは全く知らずにかえて新鮮、と感じてしまいます。</p> <p>今回の展示では、いまではあまり見ることがなくなった、それでいてちょっとむかしには普通につかわれていた生活道具から、くらしの移りかわりをたどります。スペースの関係でふだん展示する機会のない、大型のむかしの道具もいろいろ登場します。</p> <p>なお、ちょっとむかしのくらしを紹介した展示は、本展ばかりでなく、常設展示室の「変わりゆく府中」、体験ステーション、園内の復元建物等にもあり、実際の建物に入ったり、むかしの遊び体験をしたりすることでも、ちょっとむかしの想起できます。博物館内をいろいろ巡ることで、ひとつの展示室のみではなかなかできない、総合的なちょっとむかしのくらしを追体験できます。「むかしのくらし」学習の手助けとしても活用できますので、あわせてお楽しみください</p>	<p>ホームページ http://www.fuchu-cpf.or.jp/museum/ten</p>
	府中市郷土の森博物館	2018	企画展 「ちょっとむかしのくらし その3」	同上	<p>ホームページ http://www.fuchu-cpf.or.jp/museum/ten</p>
	府中市郷土の森博物館	2017	平成29年度 企画展 「ちょっとむかしのくらし その2」	同上	<p>ホームページ http://www.fuchu-cpf.or.jp/museum/ten</p>
38	日野市郷土資料館	2019	日野市郷土資料館令和元年度企画展「ひの宝モノ語り展ーくらしの工夫に光をあてるー」	詳細は令和2年1月15日号の「広報ひの」をご覧ください。	<p>チラシ ※ホームページ（プレスリリース） https://www.city.hino.lg.jp/ ※「当展示は、むかしのくらしの道具にみる工夫だけでなく、それを使っていた人々の「生の声」をもとに、生き方の工夫にも注目するものです。古老の生き方は、いまを生きる人々につながるヒントを秘めています。 今回新たにいただいたモノを中心に、ひとつひとつが地域の宝モノである理由をお伝えいたします。少ない文字数でルビを振り、薄暗い展示室で座りながら雰囲気をも楽しむことができます」</p>
39	栃木県立博物館	2021	テーマ展 「昔のこと知ってっけ？～道具を知らば暮らしが見える～」	<p>おおよそ明治時代から昭和時代の中頃にかけて、私たちの暮らしがどのように変わってきたのか、「衣」「食」「住」「遊び」にかかわる道具類とその変化を通して考えてみましょう。</p> <p>特に昭和時代の中頃には、著しい科学技術の進展に伴い、たくさんの便利な道具類が登場します。家の仕事にかかる時間は、手作業で行っていた頃に比べて大きく短縮され、余暇を楽しむ余裕も生まれました。しかし、身近な素材を活用し、道具の仕組みや使い方をそれぞれが考え抜き、技を受け継いでいくなかでの生活には、現代にも役立つ知恵や工夫を見いだすことができます。</p> <p>大昔ではないけれど、今と異なる50年以上前の暮らし。初めて見るもの、なつかしいものを前に、新しい発見があるかも知れません。</p>	<p>ホームページ https://www.pref.tochigi.lg.jp/culture/event/1086.html</p>

40	八代市立博物館	2021	昔の道具を しらべてみ よう！	今のようなべんりな道具のなかったころは、どんな暮らしをしていたんだ ろう？ 今から3～40年前、みんなのお父さんやお母さんが生まれる ちょっと前の道具から、そのころの人たちの暮らしを考えてみよう。	ホームページ http://www.city.yatsushiro.kumamoto.jp/museum/event/per_ex1/13.html
41	高岡市立博物館	2018	館蔵品展 「昔の道具 と暮らし」	当館所蔵の古い生活道具類「民具」を展示・紹介します。	チラシ ※ホームページ https://www.e-tmm.info/nenkan2019.htm 当館では長く後世に高岡の歴史文化を伝えるために、日頃、郷土の歴史・民俗・伝統産業などに関わるさまざまな資料を収集しています。収集したそれらの資料は調査・整理し、適切に保存・管理して、その成果を展示や教育普及（講演・講座など）、情報公開などに幅広く活用しています。 本展では、当館が収蔵する衣・食・住をはじめとした古い生活道具類「民具」に焦点をあて、それぞれの民具がもつ歴史や用途に加え、その時代を生き抜いた人々の暮らしぶりについて展示・紹介します。明治・大正・昭和・平成と時代が進むにつれ、私たちの生活様式も大きく変化してきました。そうした変化を、民具をとおして当時の生活を再発見していただく機会になればと考えております。
42	春日部市郷土資料館	2021	第38回小 学校地域学 習展 「くらしの うつりかわ りなつか しのくらし の道具展 ー」	昔のくらしではどんな道具をつかったのかなあ？	チラシ（表面のみ） ※ホームページ http://www.boe.kasukabe.saitama.jp/siryokan/tenji.html 「今から約60年前、くらし、生活で使う道具、そして春日部のまちも大きく変わっていきました。本展示会では、約60年前にの前後に使っていた道具やまちな写真などを展示しています。 小学校3年生の社会科地域学習の単元に対応している内容となっています。ぜひ、家族と一緒にお越しください。また、大人には、懐かしい道具や写真を楽しんでもらえる内容になっています」
43	龍ヶ崎市歴史民俗資料館	2020 ?	収蔵品展 昔の道具展 暖房具を 中心に	火鉢や行火などの電化以前の暖房具や、どてらなどの防寒着を展示し、ちょっと昔の冬の暮らしを紹介。昭和39年の東京オリンピック茨城県聖火リレーランナーが使用したユニホームやトーチも展示しています。	ホームページ https://www.ryureki.

44	八千代市郷土博物館	2019	くらしのうつりかわり展～昭和と平成のくらし～	衣食住を中心とした様々な生活道具や写真などをもとに、八千代の昔のくらしの様子やうつりかわりを紹介します。また、新たに令和の元号が始まった今年度は、平成の八千代のくらしを振り返る展示も行います。	ホームページ https://www.yachiyo.ed.jp/yachiyo/
	八千代市郷土博物館	2022	くらしのうつりかわり展～学びを支えたもの～	衣食住を中心とした様々な生活道具や写真などをもとに、八千代の昔のくらしの様子やうつりかわりを紹介します。 今年度は子どもの「学びを支えたもの」という視点で当時の様子をしのぶ資料も展示します。	ホームページ https://www.city.yachiyo.chiba.jp/600508/page00053_00034
45	北九州市立自然・歴史博物館	2021	企画展「わくわくタイムトラベルいま・むかし」	小学3年生社会科単元「わたしたちの市の歩み」のうち、「かわる道具とくらし」の学習支援を目的とし、道具やくらしのうつりかわりについて紹介します。今回は、大正時代から昭和20年代までの薪や炭などの火力を燃料とする道具を使用した時代と、昭和30年代から昭和60年代頃までの高度経済成長期以降の電化製品が普及した時代に分けて展示し、道具の変化によって、人々のくらしが大きくうつりかわる様子を紹介します。	ホームページ https://www.kmnh.jp/ailec_event/415/
46	松戸市立博物館	2021	学習資料展★こどもミュージアム「90年前からのくらしのうつりかわり」	小学生のみなさんへ みなさんは、ガスや水道がないくらしを知っていますか。水は地面を深く掘った「井戸」からくみましました。料理は木をもやして使う「かまど」でつくりました。今の水道やガスレンジのようにかんたんには使えません。電気を使わずにあたたかいご飯をさまさない工夫、夏をすずしくすごす工夫、そんな昔の工夫と知恵がこの展示にはつまっています。さあ！90年前の農家に行って探検したり、松戸の昔と今の写真を比べてみましょう。 昔、小学生だったみなさんへ 2011年3月11日に起きた東日本大震災は、現在のくらしを考え直す機会となりました。しかし、今なお私たちは明確な答えを得ていないのではないのでしょうか。本展ではガス・水道がなく、多くの電化製品を使わなかった時代のくらしを再現しました。ぜひ子どもたちと一緒にご覧ください。また、こうしたくらしを知っているみなさんにはその思い出を若い世代に語り伝え、「今」という時代にできることを一緒に考えていただければと願っています。	チラシ
47	さいたま市立博物館	2019	「さいたま市のうつり変わり」と人々のくらし展」	さいたま市立博物館では、さいたま市の発展の様子や人々の生活文化の変遷を紹介する「さいたま市のうつり変わり」と人々のくらし展を開催し、展示や体験講座を実施します。現在人口が131万人を突破し、魅力的な街として発展を続けているさいたま市の変遷を、地図や写真パネルを通して分かりやすく振り返ることができる展示となっております。併せて、明治時代から現在までの人々のくらしを追体験できる生活道具などを紹介する展示の他にも、本市が発展してきた様子を具体的に学ぶことができる多種多様な魅力ある体験活動を実施します。子どもたちが本市の歴史や伝統文化を知り、郷土に対する誇りや愛情を育めるように、昔の生活や遊びなどの体験活動を多数用意しております。是非、御来館ください。	ホームページ（プレスリリース） https://www.city.saitama.jp/004/001/002/005/oomiya/p070436.html
48	香川県立ミュージアム	2019	道具とくらしのうつりかわり	わたしたちの生活で使われるさまざまな道具。時の経過とともに変化してきました。1950年代中頃までは、ご飯炊きや洗濯などの仕事が主に人の手により行われ、たいへん時間がかかりました。しかし、羽釜やめしびつ、洗濯板、炭火アイロンなど、その当時使っていた道具を見ると、形や仕組みなどに人々の知恵がこめられています。人々の生活を大きく変えたのは、電化製品でした。香川県の電気の使用は、1895年（明治28）、高松市で初めて電灯がついたときに始まります。しかし、多くの家庭で電気製品を使うようになるのは、1950年代後半からでした。電気洗濯機・白黒テレビ・電気冷蔵庫はその代表的な製品です。その後も開発・改良が進み、電化製品はわたしたちの快適な生活になくてはならないものとなっています。この展示では明治・大正・昭和時代にかけて使われた衣・食・住の道具を紹介します。小学校の社会科や総合的な学習の時間にご利用ください。また、一般の方も昔の生活に想いをはせてみてはいかがでしょうか。	ホームページ https://www.pref.kagawa.lg.jp/kmuseum/kmuseum/tenji/archives/30/dougu.html

49	白山市立博物館	2021	企画展「くらしの道具のうつりかわりー昔と今をくらべるー」	「料理する」「明るくする」「洗濯する」などのテーマにわけてさまざまな道具のうつりかわりを展示します。皆さまのご来館をお待ちしております。	ホームページ http://www.hakusan-museum.jp/hakubutukan/news/2021-1-8-2-28%E3%80%80%E4%BC%81%E7%94%BB%E5%B1%95%E3%80%8C%E3%81%8F%E3%82%89%E3%81%97%E3%81%A8%E9%81%93%E5%85%B7%E3%81%AE%E3%81%86%E3%81%A4%E3%82%8A%E3%81%8B%E3%82%8F%E3%82%8A%E3%83%BC%E6%98%94/
	白山市立博物館	2022	令和3年度企画展「かわってきた道具とわたしたちのくらし」	「洗濯」「あかり」「料理」などのテーマにわけてさまざまな昔の道具を展示します。皆さまのご来館をお待ちしております。	ホームページ
50	千葉県立中央博物館 大利根分館	2021	収蔵品展「古い道具と昔のくらし」	小学校3年生で学習する単元「古い道具と昔のくらし」に最適な展示です。昔の道具を見ながら、楽しく学べます。	ホームページ http://www2.chiba-museum.or.jp/www/OTONE/
51	青梅市郷土博物館	2018	収蔵品展「なんだこれ?!ー昔の道具展ー」	郷土博物館は、数多くの郷土資料を収蔵しており、民俗資料だけで約1万点にもなります。これらの中には、懐かしく感じたり、初めて見るものがたくさんあります。今回の収蔵品展で、今では使われなくなったさまざまな昔の道具を展示します。展示を通じて、昔の暮らしを振り返りながら、現在の私たちの暮らしを見つめ直すきっかけになるかもしれません。子どもから大人まで、幅広い年代のみなさまのご来館をお待ちしております。	ホームページ https://www.city.ome.tokyo.jp/site/provincial-history-museum/3068.html
52	北区飛鳥山博物館	2020	「来て、見て、さわって! 昔の道具」展	私たちは今もむかしもたくさんの道具に囲まれて暮らしています。しかし、今から110年ほど前には、電気も水道もガスも使わないで生活している時代がありました。そのころの人々はどうの道具を使って、暮らしていたのでしょうか。博物館が収集してきた資料のうち、明治・大正・昭和と北区地域に暮らしてきた人々が使用したさまざまな生活用品を約80点展示します。実際に手にとって感触を確かめていただけるものや実物の石臼を挽いて粉にする体験コーナーもあります。ぜひ当館で、昔の道具を見て、さわって、昔のくらしを想像してみましょう! ※この展示は、小学校対応事業に伴う展示を一般にも公開するものです。	ホームページ https://www.city.kita.tokyo.jp/hakubutsukan/tenji/31douguten.html
53	横須賀市自然・人文博物館	2017	特別展示「なつかしの道具展」	昭和11年製の消防車や陶器製の消火器、真空管ラジオやレコード、初期の炊飯器などなつかしい道具を展示し、昔の茶の間も再現します。また、今ではみられない漁師のハレ着「万祝(まいわい)」を博物館オリジナルのデザインで製作した過程の映像や、木綿から布ができるまでの記録映像を上映します。けん玉やコマなど昔ながらの遊びが自由に楽しめる体験コーナーもあります。	ホームページ https://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp/archives/exinfo/24322
54	大分県立歴史博物館	2021	令和3年度企画展「子どもに見せたい昭和の道具」	昭和39年(1964年)以来の東京オリンピック開催にあわせ、ひとむかし前の生活を振り返ります。大人たちが使っていた生活の道具や、子どもたちが使っていた勉強や遊びの道具などを紹介します。大人と子どもと一緒に、現代のものと比べましょう。そして、懐かしい昭和の道具をきっかけにして、子ども時代の思い出を家族に話してみませんか?	チラシ
55	一宮市博物館	2021	企画展「くらしの道具展ー民話の世界からー」	昔なつかしい生活道具の展示を通して、今と昔のくらしの違いを見つける展覧会です。歴史を学び始める子どもたちのために、クイズや体験を織り交ぜながら、身近な道具にひそむ歴史をわかりやすく紹介します。	チラシ(趣旨なし) ホームページ https://www.icm-jp.com/archives/629
56	福山市しんいち歴史民俗博物館	2021	企画展「私が暮らした道具展」	コロナ禍により、外出を減らし自宅で過ごすよう「ステイホーム」が呼びかけられました。家で多くの時間を過ごすことは、家の中の暮らしの道具を見直す機会にもなったのではないのでしょうか。現在の暮らしは多くの便利な道具が作られ、手に入りやすくなった反面、簡単に道具を使い捨てています。令和の展示は先人たちが暮らしの中でもとにも過ごした道具を紹介するとともに、現在の私たちの生活を振り返り考える機会となればと思います。	チラシ

62	美濃加茂市民 ミュージアム	2011	「暮らしカ ル道具展」	今回は洗濯の道具、冷蔵庫や箱膳といった食の道具、明かりの道具などを 展示します。	<p>チラシ（表面のみ） ※ホームページ http://www.forest.minokamo.gifu.jp/tenrankai/23/2011_06.html</p> <p>当展では、市民のみ なさんから寄贈いた だいた昔の暮らしの道具 を展示します。今回は、 洗濯の道具、食の道具、 明かりの道具などを展 示し、その変遷をたど ります。</p> <p>昔の道具を見ると き、朝早くから夜遅く まで農作業で働き続け た日々や水道も電気も なかった暮らしが想像 され、多くの苦勞があっ たことが偲ばれます。 しかしそんな中にも、 どんなことも「ありが たく大切に」「ほんの少 しだけ」だった人々の 姿がありました。</p> <p>時は変わって現代、 私たちの生活には、多 くの「もの」があふれ、 限りある自然エネル ギーを利用し続けてい ます。今年は、東日本 大震災が occurred。誰 もが“日常生活を見 直す”という機運の中 にいます。今では役目 を終えた昔の道具から、 現代の私たちでさえお どろかされる当時の知 恵と工夫を知り、つつ ましく生きていた人々 の願いを伝えられたら と思います。</p> <p>また、当展は学校の 学習活動とも連携し、 子どもたちが生活体験 館（まゆの家）で、実 際の道具にふれて体験 しながら学びます。次 世代へ、美濃加茂の昔 の暮らしがこれからも ずっと語り継がれてい くことを願います。</p>
63	西尾市立一色学び の館	2020	冬季企画 展「これ、 何に使っ たの？～ ちょっと昔 の道具展 ～」	電化製品や機械製品が使われる以前の人びとはどのような道具を利用して いたのでしょうか。農業・漁業・商売（事務）に用いられた道具をテーマに、 何の作業に使われたのか、その仕組みが現在の道具にどのように活用され ているのかを紹介します。	チラシ（表面のみ）

64	高槻市歴史民俗資料館	2021	企画展「ちよっと昔の『はこぶ』道具」	重たいものやかさばるもの、こまごましたものや食べ物・飲み物、さらには人まで。さまざまなモノや人を「はこぶ」道具は、今も昔もわたしたちの日常生活を支えています。30から100年ほど前の「ちよっと昔」まで使われていた、「はこぶ」道具を紹介します。	ホームページ http://www.city.takatsuki.osaka.jp/rekishi_kanko/rekishi/rekishikan/topics/shiroato/1601709721157.html
65	瀬戸蔵ミュージアム	2016	企画展「むかしの道具展」	便利な世の中になった現在、物を長く使うということが次第になくなってきています。しかし、少し前までは物を大切に使い、壊れれば修理をして繰り返し使うことが当たり前でした。今回の企画展では江戸時代から昭和時代の暮らしの中の様々な場面で使われた昔の道具を展示します。会場では「食事の道具」「はかる道具」などの12のテーマに分け、それぞれのテーマに沿った展示をします。展示をご覧いただき、道具たちに息づいている昔の人々の智恵や暮らしの変化を感じとっていただければと思います。また、小学校3年生の社会科ではこの時期に暮らしの移り変わりを学ぶ授業が行われます。授業で取り上げられた昔の道具を、実際に間近で見て、学びを深めていただく機会となれば幸いです	ホームページ http://www.seto-cul.jp/information/index.php?s=1454740678
66	七飯町歴史館	2015	収蔵展「くらべる昔の道具展」	当館収蔵資料の中から、生活用具に焦点をあて、似た用途の道具たちを江戸から明治期、大正～戦後、高度経済成長期以降の3つのステージに分け、各々どのように発展してきたのか紹介いたします。近代発達が目まぐるしい暮らしの道具のちよっと昔の姿を観覧して頂きたいと思います。昔を懐かしみながらみたり、社会科の勉強もかねてなど、幅広い年代のご利用をお待ちしております。	ホームページ http://www2.town.nanae.hokkaido.jp/rekiskan/jyouthou/kuraberu.html
67	京都府立山城郷土資料館	2021	企画展「暮らしの道具いまむかし」	この100年あまりの間にわたしたちの暮らしぶりは大きく変化しました。それとともに暮らしのなかで使われてきた生活道具もさまざまに変化してきました。企画展では、主に明治時代から昭和時代にかけて家庭で使われていた生活道具を紹介します。いま（現在）とむかし（明治時代から昭和時代）の道具を調べていくと、その道具のことだけではなく、暮らしのうつりかわりについても知ることができます。古い道具のつぶやきに耳をかたむけ、むかしの暮らしについて考え、見ていただければと思います、	チラシ
68	和歌山市立博物館	2022	「歴史を語る道具たち」	和歌山市立博物館収蔵の昔の生活道具や農具の一部を「くらしの道具」、「遊びと勉強」、「あかりの道具」、「食事の道具」、「はかる道具」、「あたたまる道具」、「米作りの道具」の7つに分けて展示し、昔の道具に込められた人々の生活の知恵や工夫を探ります。	ホームページ http://www.wakayama-city-museum.jp/exhibition.html
69	滑川市立博物館	2022	「昔の暮らし」	本展覧会では、昔の生活の中で使用されていた道具類を展示します。農作業で使用したものや、飲食具、家具、調度品、暖房器具など、博物館で収蔵しているものの中から厳選してご紹介します。滑川の人たちが農作業や家庭の中で使ってきたものを見て、現在のものとの違いを感じたり、昔を思い出したりしてみませんか。	チラシ（表面のみ）
70	十日町市博物館	2022	昔の道具展	博物館に寄贈された昔の道具を展示します。足踏みミシンや氷水冷蔵庫、手動式計算機、白黒テレビなど「昭和の道具」集めます。昔を懐かしむ年代の方だけでなく、学校の授業等でもご活用ください。	ホームページ https://www.tokamachi-museum.jp/news/211224-mukashinodoguten/
71	筑紫野市歴史博物館（ふるさと館ちくしの）	2022	冬の展示「僕の昔のくらし展-おばあちゃんが子どもだった頃-」	今回の展示では、小学校3年生（9歳）の「僕」と、昭和29年生まれ（67歳）の「おばあちゃん」を設定し、僕が聞いたおばあちゃんの子どもの頃の暮らしを紹介します。おばあちゃんが子どもの頃の昭和30～40年代のお正月に関する資料や暖房器具、ごっこ遊びに関する資料、また昔の農具や家電製品などを展示しています。	ホームページ https://www.city.chikushino.fukuoka.jp/soshiki/48/18363.html
72	柏原市立歴史資料館	2022	令和3年度冬季企画展「ちよっと昔の道具たち 暮らしのなかの布」	わたしたちにとって、布は欠かすことができない大切な道具です。さ寒さをしのいだり、おしゃれをするための服、店の入口にかけるのれん、布団やクッションなど、布はさまざまな利用がされています。布の歴史をたどると、木綿づくりの広まりが大きな出来事でした。大阪では、1704年の大和川付け替えにより、かつての大和川は畑として生まれかわり、綿づくりがとて盛んになりました。それと同時に、機織りの道具や、手入れをするためのアイロンなど、布に関係する道具も広まってきました。展示をとおして、わたしたちは布とどうつきあってきたのか見てみましょう。	チラシ

73	仙台市歴史民俗資料館	2021	特別展「和の道具〜くらしの知恵と工夫」	明治時代の文明開化以降、西洋のさまざまな道具がわが国にもたらされましたが、本展では、文明開化以前の江戸時代以前から用いられてきた道具を「和の道具」とし、和と洋のくらしの相違と融合を紹介します。また、電化以前の日常のくらしで使用されてきた道具を紹介し、手間と時間をかけながらも知恵と工夫をめぐらせていたかつてのくらしを振り返ります。	チラシ
74	さいたま市立浦和博物館	2021	ちょっと昔の暮らし展	明治時代から昭和40年代ころまでに、ふだんの生活で使っていた、いろいろな道具や風景の写真を紹介します。けん玉や羽つきなど、昔のおもちゃであそべるコーナーもあります。	チラシ
75	入間市博物館	2022	むかしのくらしと道具展	くらべてみよう！「おらーほー」の今とむかし 昭和初期から平成までのくらしの道具、学びの道具、遊びの道具などの資料を、時代を追って展示します。 また、入間市博物館がある二本木地区が「元狭山村」だった頃に少年時代を過ごした関谷さんが描いた昭和前半のくらしの情景「思い出画」と、絵の中に登場するむかしの道具も展示します。 ※「おらーほー」は村のことばで「おれのところ」という意味	チラシ（表面のみ）
76	小松市立博物館	2021	企画展「しうらべてみよう！むかしのくらし」	当企画展は、SDGsの「7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに」という目標と大きくかかわる、電気に着目しています。私たちの身の回りには、電気を使った道具がたくさんあり、電気はあって当たり前ものになっています。しかし電気が普及したのはそれほど昔のことではありません。かつて電気がなかった時代、人々はどんな風にくらしていたのか、そして電気がきて、どのようにくらしが変わったのかを、当時の資料から考えます。	チラシ
77	羽村市郷土博物館	2022	3年生社会科郷土学習関連展示 企画展「むかしのくらし」	昭和時代に使われていた、くらしの道具の展示です。 着替え、洗濯、料理、貯蔵、冷暖房など。私たちの生活には、さまざまなくらしの道具が欠かせません。 くらしの道具は、くらしの移り変わりに合わせて変化していきます。 むかしの道具と、現在私たちが使っている道具を比べると、形や仕組みが変わったもの、今はほとんど使われなくなったものなどがあります。 これらの道具の変化を通して、くらしの移り変わりを学ぶとともに、「むかしのくらし」に触れてみましょう。 ●この展示は、小学校3年生社会科の郷土学習に対応しています。	ホームページ https://www.city.hamura.tokyo.jp/0000015836.html
78	榛東村 耳飾り館	2021	耳飾り館企画展「むかしの暮らし展」	榛東村で昭和30年頃まで使用されていた、むかしの道具を展示します。私たちに身近な道具のうつりかわりを、見学して感じてください。	ホームページ https://www.vill.shinto.gunma.jp/mimikazarisightseeing/000245/000247/p000453.html
79	町田市立自由民権資料館（会場：三輪の森ビジターセンター 郷土資料展示室）	2021	「むかしの暮らしと運ぶ道具」	電化製品やプラスチック製品などが普及し始めた昭和30年代を境に、私たちの暮らしの中にある道具は大きく変化し、生活も様が変わりました。木や竹などで作られたものから、丈夫で軽量、安価で大量生産できる合成樹脂製の道具が家庭の中で一般的となっていく、現代の生活でも衣食住すべてにおいて欠かせないものとなっています。 本展覧会では、生活が大きく変化する昭和30年代以前の農家で使われていた「運ぶ道具」にスポットを当て、どのように現代の生活道具へと変化していったのかを紹介します。	チラシ
80	目黒区めぐろ歴史資料館	2021	令和三年度冬の企画展 昔のくらしと道具展「つくるということ」	ものが豊富にある現代の日本では、なんでも簡単に手に入れることができますが、ものがつくりだされる過程を知る機会、失われつつあるのではないのでしょうか。 本展では、つくるということが身近だった昔、衣食住に関わる生活用品がどのようにみだされ、そこにどんな知恵と工夫がこめられているのか、「つくる」をキーワードに紹介します。ぜひご覧ください。	ホームページ https://www.city.meguro.tokyo.jp/smph/event/moyooshi/kikakuten.html
81	淡路市北淡歴史民俗資料館	2021	企画展「昔のくらし展」	昭和の古き良き時代、人は日々の生活の中でたくさん道具を使い暮らしてきました。 昭和30・40年代を中心に日々の生活で使われてきた「道具」を通して、昭和のくらしを振り返ります。	ホームページ https://www.city.awaji.lg.jp/soshiki/shakai/35165.html

82	土浦市立博物館	2022	「昔のくらしの道具」展	社会の変化とともに移り変わってきた人々のくらしを3つのテーマ「日常生活の道具」・「田畑から食卓へ」・「くらしの道具を作る」にそって、道具を通して振り返ります。	ホームページ https://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page016775.html
83	調布市郷土博物館	2022	郷土学習展「ちょっと昔の暮らし」	郷土学習展は、昔の道具や暮らしについて調べている子どもたちの学習に役立つよう、博物館の収蔵品の中から衣・食・住を中心とした道具を紹介する展示です。 私たちは、暮らしの中でたくさんの道具を使っています。道具は時代の移り変わりとともに改良され、特に電気を使った製品が広まる前と後では、暮らしが大きく変化しました。今から60年ほど前の「ちょっと昔」(1960年ごろ)、多くの人びとが家で電化製品を使うようになって暮らしが便利になりました。電気がない代わりにさまざまな工夫をこらしていた「もっと昔」の道具や、今の私たちが使っている道具と比べながら、暮らしの移り変わりに思いをめぐらせてご覧ください。	チラシ(表面のみ) (趣旨なし) ホームページより https://www.city.chofu.tokyo.jp/www/tents/1610609846709/index_k.html
84	東村山ふるさと歴史館	2022	小学校社会科見学対応展示「むかしの暮らしと道具」と道具	小学3・4年生の社会科見学に対応して、「電気やガス、水道のないころの暮らし」と「高度経済成長期のころの暮らし」について、館蔵資料を展示します。平日の午前中は小学生が社会科見学で来館しており、その際には展示室で学芸員が道具類を説明しています。 あわせて、当時の市内風景写真、文化財紹介コーナー「もっとむかしの道具」も展示します。	ホームページ https://www.city.higashimurayama.tokyo.jp/tanoshimi/rekishi/furusato/tenji/r3nenndotenji/rekisi2021mukashi.html
85	池田市立歴史民俗資料館	2021	「ちょっと昔のくらしの道具」	大正時代から高度成長期ごろにかけて使われていた生活道具を中心に展示します。当時の人びとのくらしぶりから、生活の知恵や工夫を見つけましょう。 新型コロナウイルス感染拡大の影響で、おうちで長い時間を過ごす子どもたちのため、おうちで学べるコンテンツをお届けしています。 展示室でのみ配布していた「ちょっと昔のくらしの道具」資料解説カードがおうちでダウンロードできるようになりました。このカードは、展示している昔の道具を写真付きでわかりやすく説明したものです。印刷すると自分だけの解説ブックを作ることができます。また、YouTubeで配信している動画では、学芸員が昔の道具を使って、その魅力をお伝えします。 いずれも、子どもも大人も、楽しみながら学べる内容となっておりますので、ぜひご利用ください。	チラシ(表面のみ) ホームページ https://www.city.ikeda.osaka.jp/event/1513306948768.html
86	石神井公園ふるさと文化館	2019	企画展「のぞいてみよう昔のくらし」	昔は電気やガス、水道はなく、いろいろな道具を工夫して使い、くらししていました。昭和30(1955年)年代以降、家電製品などの便利なくらしの道具がだんだんと普及し、住まいやくらしのスタイルが大きく変わってきました。本展では、そうしたくらしの移り変わりを、明治から昭和にかけて使われていた道具を中心に展示し、衣・食・住といった昔のくらしを紹介します。	ホームページ https://www.neribun.or.jp/event/detail_id=201905011556675537
87	湖南省東海道石部宿歴史民俗資料館	2022	特集展示「昔のくらし展 Part.6」	湖南省東海道石部宿歴史民俗資料館には、小島本陣を中心とする石部宿関係の資料のほか、市民から寄贈された民具を数多く収蔵しています。これらの一部は、宿場の里にある民家や商家、農家、茶店等で展示品として活用しています。 毎年、1月から2月にかけて市内の小学3年生が社会科の授業で資料館に来館されて昔の人々の生活の移り変わりを学ばれます。 そこで、今回の展示では、小学生の社会科授業が充実したのになると共に、市民に文化財保護について広い視野から認識を深めていただけるように、館蔵品である昭和の時代に使用されていた民具や写真によって、昭和30年代から40年代頃の人々のくらしを紹介します。	ホームページ https://www.city.shiga-konan.lg.jp/soshiki/kyoiku_iinkai/shogai_gakushu/5/25977.html
88	世田谷区立郷土資料館	2021	ミニ展示「すこし昔のくらしー子どもの学び・遊び」	世田谷に畑が広がっていた昭和のはじめ頃まで、農家の子ども達は学校に通いながら、登校前や下校後に畑仕事を手伝い、その合間に遊びました。現代の子ども達は放課後を家で過ごすことが多くありますが、当時の子ども達の遊び場は自然の中でした。ザリガニや魚、ホタルを捕り、竹馬や凧、石けり、かくれんぼ、羽つきなどをして遊びました。 本展では、子どもの学びと遊びを中心に、今に残る教科書や玩具から、昔の子どもの暮らしを紹介します。	ホームページ https://etagayadigitalmuseum.jp/event/410/detail/45375412/

89	玉村町歴史資料館	2022	ミニ企画展 「第12回 昔の道具展 ～家と学校の 道具たち ～」	昔のくらしや道具の移り変わりについて紹介します。 また今年度は、関連行事として「昔の道具総選挙」と題し、展示した道具の投票を行います。	チラシ（表面のみ） （趣旨なし） ホームページ https://www.town.tamamura.lg.jp/docs/2020112400022/
90	芦屋市立美術博物館	2012	「昔の暮らし展—家族愛とは何か?—」	現代の急速な都市化の進展は、核家族化や少子化などを招き、家族構成に少なからず影響を与えています。祖母や祖父から昔の話を聞く機会が少なくなり、いまや昔の人の暮らしは現代社会から切り離されつつあります。そこで、本展では昭和の時代における玩具や衣料、寝具などの生活に欠かせない品々をご紹介します。また、江戸時代以降、家族がそろってお宮参りに出かけ、住居に飾られた神棚に拝札をするしきたりがありました。家内安全が祈られた信仰の歴史を伝える遺品もあわせて展示します。昔の家族のあり方を振り返り、家族愛とは何かいま一度考えて頂くことが本展のねらいです。	ホームページ https://ashiya-museum.jp/exhibition/exhibition_backnumber/1730.html
91	新潟県立歴史博物館	2017	夏季企画展 「クイズとたいけん!むかしのくらし」	おじいさん・おばあさんのこどものころは、どんなくらしだったのでしょうか。この展示では、クイズに挑戦したり、むかしの道具にさわってあそんだりしながら、むかしのくらしのよいところ・いまのくらしとちがうところを見つかることができます。	チラシ
92	四日市市立博物館	2022	企画展「昭和のくらし 昭和のおもちゃ」	今、私たちは、スイッチひとつで何でもできる便利な時代にくらしています。このようなくらしの出発点になったのは昭和30年代でした。日本が高度経済成長へと向い、電化製品が少しずつ家庭に入ってきたころです。本展では、豊かなくらしの訪れに胸を膨らませていた「昭和30年代」と、それまでの電気・ガス・水道がまだ家庭では便利に使えなかった「昭和初期」を中心に、くらしの道具を視点にしながらしや人々のくらしがどのように移り変わってきたのかを紹介します。長い間使われてきた道具は先人たちの知恵と工夫の結晶であり、昔の人たちが道具を大切に用いていたことを「実物を見る」「体験する」「話をきく」ことで、子どもたちに感じてもらいたいと思います。 今回の展示では、新たに「懐かしいおもちゃ」のコーナーを設けます。生活の中に必ずあったおもちゃは、生活必需品というわけでもなくおもちゃがなくても人は生きていけます。しかし、ビタミンのように人々の生活に潤いを与え、情操を豊かにしてくれるとても大切な一面もあるのです。そんなおもちゃには、その時代背景がより濃く表れているので、おもちゃを通して当時を振り返っていただきたいと思っています。 、同じく新設する「大人のホビー」のコーナーでは、おもちゃがホビー玩具として子どもだけでなく大人が楽しむことを目的とした新しい価値観を持ったものになってきており、その世界観もぜひお楽しみください。 この会場が、当時を懐かしむ同世代同士はもちろんのこと、大人たちと子どもたちとの出会いの場となり、世代を超えた学び合いの場になることを願います。	チラシ
93	稲敷市立歴史民俗資料館	2011	収蔵資料展 「くらしの道具」	平成になって20年以上が過ぎ、昭和の記憶も遠いものになろうとしています。この何十年間かの中で私たちのくらしは大きな変化をとげ、今日、そんなに速くない昔のものが失われようとしています。 今回は、当館で収蔵している昔の道具を展示し、暮らしの変化を“もの”を通して学習する機会を作るため企画しました。ノスタルジーや物珍しさを感じたり、その使われ方を考えたり、さまざまな角度から見ていただくことで、今の私たちのくらしを見直すことに通じれば幸いです。	ホームページ https://www.city.inashiki.lg.jp/page/page001714.html
94	久喜市立郷土資料館	2021	収蔵品展 「ちよっとむかしの道具たち—暮らしと祭り—」	小学校地域学習副読本『わたしたちの久喜市』の「今にのこる久喜市の昔とくらしのうつりかわり」の学習内容に対応した資料や久喜市の祭りに関する収蔵品を紹介します。	ホームページ https://www.city.kuki.lg.jp/miryoku/rekishi_bunkazai/kyodoshiryokan/tenji/shuzohin/syuzouhin.html
95	板橋区立郷土資料館	2021	【ミニ企画展】おうち時間 むかしのくらしと道具 —女性の楽しみ身だしなみ—	新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、おうち時間への関心が高まっています。今回の展示では、近世から近代の収蔵品を中心に、女性の暮らしや道具をご紹介します。	ホームページ https://www.city.itabashi.tokyo.jp/kyodoshiryokan/event/3000376.html

96	立川歴史民俗資料館	2022	企画展「昔のくらしと道具」	日常生活にまつわる、昔懐かしい道具を展示します。	ホームページ https://www.city.tachikawa.lg.jp/shogaigakushu/kosodate/kyoiku/iinkai/shiryokan/rekishiminzoku/oshirase.html#E6%98%94%E3%81%AE%E3%81%8F%E3%82%89%E3%81%97%E3%81%A8%E9%81%93%E5%85%B7
97	神戸市埋蔵文化財センター	2020	冬季企画展 昭和のくらし・昔のくらし 14	今回で14回目となる『昭和のくらし・昔のくらし』展を開催します。「昭和」の時代、第二次世界大戦や戦後の高度経済成長期、東京オリンピック開催など、社会が大きく変動した時代でもありました。人々のくらしや生活道具も大きく変化しました。そんな「昭和のくらし」をテーマとした展覧会です。 昭和30年代・40年代の家庭の様子を復元した実物大ジオラマに、当時の電化製品やくらしの道具類を展示し、移り変わる生活スタイルを垣間見ます。大人たちには懐かしく、子どもたちには新鮮に。 開催期間中には、ゴム鉄砲やコマまわしなどが体験できるイベント「昭和のあそび・昔のあそび」やミゼットなどの昭和に活躍していた自動車たちが集まる「昭和の車大集合」のイベントも開催します。	ホームページ https://sitereports.nabunken.go.jp/ja/event/416
98	羽咋市歴史民俗資料館	2012	羽咋市歴史民俗資料館 開館30周年記念企画展「むかしのくらし」	今年開館30周年を迎える資料館では、夏と秋に記念展を開催します。第一弾は、「むかしのくらし」と題して、明治～昭和時代に使われていた「身のまわりの品々」と「子どもをめぐる品々」を展示します。子どもも大人と一緒に「むかし」をお楽しみください。	ホームページ https://www.city.hakui.lg.jp/rekimin/exhibition/special/exhibition/mukashinokurashi.html
99	高松市香南民俗郷土館	2021	高松市香南民俗郷土館 企画展「くらしの道具 民具は語る」	この企画展では、香南歴史民俗郷土館所蔵の民俗資料を中心に、昔懐かしくらしの道具を展示し、道具にこめられたくらしの知恵を紹介します。	チラシ
100	相模原市立博物館	2020	開館25周年記念企画展 学習資料展 「道具が変えるわたしのくらし～未来へ向かう記憶～」	学習資料展では、小中学校の学習に役立てていただくために、博物館の収蔵品を通して、ちょっと昔のくらしを紹介します。 今年は、家庭で使われていた道具や暮らしの移り変わりを、市民のみなさんの体験エピソードとともに展示します。子どもたちだけではなく、大人のみなさんにも楽しんでいただける内容です。	チラシ
101	歴史館いずみさの	2022	令和3年度 冬季企画展 「むかしなくらし」	昭和から平成、そして令和へ。時代が移り変わるとともに、私たちのくらしや街の風景は日々変化してきました。特に昭和という時代は今の私たちのくらしの基礎が築かれた時代であり、とりわけ昭和20年代以降、戦後の復興や高度経済成長により人々のくらしはモノであふれ、便利で豊かになりました。また、マスメディアの発達によりレコードや映画といった娯楽はさらに大衆化し、スターの誕生に人々は熱狂しました。本展示では、特にめざましい成長を遂げた昭和30～40年代を象徴する生活用品や文化、街の活況を伝える資料を中心に展示し、平成・令和につながる私たちのくらしを振り返ります。	チラシ
102	小野市立好古館	2021	企画展「ザ・昭和のくらし①懐かしい台所風景」	家族そろっての団らんのひと時を思わせるちゃぶ台や食器、調理道具、また炊飯ジャーなど昭和レトロな家電などを紹介します。	チラシ
103	茨木市立文化財資料館	2022	ちょっとむかしのいばらき	ちょっとむかしのくらしの道具や、大正時代から昭和40年代頃までの茨木の写真を展示しています。2月25日(金)～3月7日(月)は、おひな様も展示しています。	チラシ(表面のみ)
104	向日市文化資料館	2022	テーマ展示 「くらしの道具」	向日市がまだ向日町(むこうまち)とよばれていた、明治時代から昭和30年代ごろのこの地域の生活や農作業につかわれていた道具を、資料館ボランティアメンバーが展示し、なつかしいくらしを再現します。ぜひご覧ください。	チラシ(表面のみ)